



## 論文審査の結果の要旨

本論文は都市緑地の植物管理で発生する剪定枝を活用した持続的な物質循環系の創出について研究したものである。本論文は令和3年1月5日に提出され、その後上記4名の審査委員により論文の内容および構成等の観点から慎重に審査された。

令和3年1月19日に、公開論文発表会を開催し、論文の発表と論文内容に関する質疑応答を行った。発表会の後に審査会を開催し、以下の結果を得た。

本論文は、(1) 土壌での枝葉の分解特性を樹木の落葉様式で分類できること、(2) 都市化に伴う土壌の性質の変化により剪定枝の元素濃度が変化し、また、土壌生物の多様性が低下し剪定枝の分解が不活発になるしくみを解明したことが学術論文として評価できる。

しかし、発表会の質疑応答を経た審査会において(1) 表題がやや不適切である、(2) 総合考察での研究成果の記述が不十分である、(3) 用語の誤用がある、といった課題が明らかとなった。この課題に対しては修正が軽微であり、修正確認を行い、学位論文に値すると判断した。

以上より申請者が博士（農学）の学位に値する専門分野における学識を有すること、および外国語についても試験の結果、英語の能力をもつことを確認した。さらに、本論文の内容に関する論文が日本緑化工学会誌45巻1号15-19ページ(2019年)および同誌46巻1号9-14ページ(2020年)に公表されていることを確認した。